

育児支援基金利用内容

保育先確保が困難となっている学生等を対象に
学生対象一時保育等利用料補助を実施。



●利用対象者

出産・子育てと学修・研究の両立のために支援を必要とする、以下の学生を対象とする。

- ①本学の学部、大学院(修士課程・博士後期課程・専門職学位課程)に在籍する正規学生及び科目等履修生等で、配偶者が就労・就学中、または病気入院等であるもの
- ②本学の学部、大学院(修士課程・博士後期課程・専門職学位課程)を休学中のもの(半年以内に復学を予定しているもの)で、配偶者が就労・就学中、または病気入院等であるもの
- ③配偶者が就業・就学中または病気入院等ではないもの等、上記に当てはまらない学生からの利用申込については、ダイバーシティ推進室で判断して決定する。

●対象となる子ども

乳幼児及び小学校3年生までの児童。その他、健全育成上の世話を必要とする(身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けている)小学校6年生までの児童。
上記「利用対象者③」のものからの利用申込については、原則として、小学校就学前の児童に限る。

●対象となるサービス

対象となる子どもの一時保育
通常保育場所の利用時間外(夜間・休日、病児・病後児保育)でのベビーシッターによる家庭内保育等
対象者が学修または研究活動(TA、RA、学会参加等含む)時間内での利用に限る。オンライン参加時も利用可。
通常保育場所利用料、家事代行等の附帯的な料金、入会金、年会費、キャンセル料等は、補助対象外である。

●支援金額と利用限度

1日の利用につき、10,000円を補助する。ただし、利用料金が1日10,000円に満たない場合は、支払金額までを補助対象とする。利用限度は子ども1人あたり、年度につき原則55,000円までとする。ただし、上記「利用対象者③」の場合、子ども1人あたり、年度につき原則30,000円までとする。半期毎に、1回の支援金額、年度利用限度を見直す場合がある。

利用者の成果事例

- ◆日本学術振興会特別研究員(PD)採用
- ◆一橋ジャーナルへの論文掲載
- ◆スミセイ(住友生命)女性研究者奨励賞受賞
- ◆学会誌への論文掲載
- ◆公募による研究支援基金からの研究助成の受賞
- ◆学会での論文発表
- ◆本学・他大学非常勤講師に採用
- ◆学会報告 等

利用者からの感謝の声

※寄稿時の所属、お子様の年齢を記載しております。

複数の育児支援制度を組み合わせ
て利用し、経済的にも精神的にも
安心できました

法学研究科 修士課程
大学院生
お子様(2歳、6歳)

私は、上の子が幼稚園の年長、下の子が2歳のときに、修士課程に入学しました。専攻科目の演習が夕方遅くにあるため、上の子の幼稚園の預かりが終わってから、私か夫が自宅に帰るまで、ベビーシッターさんを頼むことになりました。そしてそのとき、本大学に育児支援制度があることを知り、この制度を使わせていただくことにしました。

何より助かったのは、大学と契約しているベビーシッター業者があること、そしてその利用料を補助していただけることでした。いざシッターさんを頼むとなっても、一体どこのシッター会社さんに頼むでいいかわからず、決めかねていましたが、一時保育等利用料補助を利用し、大学の法人契約業者を利用することで経済的にも精神的にも安心して研究を進めることができて本当に感謝しています。

これからも本制度を続けていただき、私の様に悩めるママ学生や研究者の助けとなってくださることを願っております。(2018年度)

後輩たちのために将来は自分も
サポートする立場になりたいです

経営管理研究科 博士課程
大学院生
お子様(4歳)

私は博士課程3年時に妊娠・出産しましたが、保育園に子供を入れることができず、休学しなければいけませんでした。その間、研究ができず、また経済的にも余裕がなく、気持ちが落ち込むことも多かったです。外国人として日本で生活して子育てをすることはとても苦勞を伴います。しかし今年度復学し、育児支援基金の制度を利用させていただきました。子供を預けて自分の時間を確保することで、研究を進めることができ、また気持ちもリフレッシュしました。制約はありますが、この制度が利用できて本当にありがたいと思います。寄附者の皆様へ感謝申し上げます。同じ境遇の後輩たちのために、将来私も寄附をしてサポートする立場になりたいです。(2019年度)

夜間のゼミにすべて出席できたのは
育児支援基金のおかげです

経営管理研究科 修士課程
大学院生
お子様(3歳、6歳)

2年に渡り育児支援基金でご支援頂きありがとうございました。企業派遣でMBAにきていましたが、派遣前は会社で時短勤務をしていました。しかし大学院では夜間も授業があるので、2人の息子たちを見て頂くのに初めてシッターさんをお願いしました。毎回7000円~1万円かかる所手厚くサポートして頂いたおかげで何とか授業にも毎回出席でき、修士論文も提出することができました。本当にありがとうございました。私のように子育てしながらでも、勉強ができるようなサポート体制があることで救われている方は非常に多いと思います。素晴らしい基金だと思います。一橋で学んだことを帰任先でも活かして頑張りたいと思います。(2019年度)

子どもの心配をすることなく
週末のシンポジウムに参加できました

社会学研究科 修士課程
大学院生
お子様(5歳)

土曜に開催されたシンポジウムに参加する際に、支援制度を利用しました。子どもは未就学児のため留守番はまだできず、連れて行っても飽きてしまいます。そこで、私が不在の時間は市のファミリーサポートの方に託児を依頼しました。本制度では金銭的な補助が受けられ、子どものことを心配することなく研究できる点が大変助かります。今後さらに利便性の高い支援制度になるよう期待しています。(2019年度)

Thank You!